（１）高等学校設置に係る制度上の主な要件

高等学校設置に係る制度上の主な要件

要件		高等学校設置基準	高等学校通信教育規程
校舎設置	校舎の面積	第十三条　校舎の面積は、法令に特別の定めがある場合を除き、全日制の課程若しくは定時制の課程の別又は学科の種類にかかわらず、次の表に定める面積以上とする。ただし、地域の実態その他により特別の事情があり、かつ、教育上支障がない場合は、この限りでない。 収容定員 ／ 面積（平方メートル） 一二〇人以下 ／ 1200 一二一人以上四八〇人以下 ／ 1200＋6×（収容定員－120） 四八一人以上 ／ 3360＋4×（収容定員－480）	第八条　通信制の課程のみを置く高等学校（以下「独立校」という。）の校舎の面積は、一、二〇〇平方メートル以上とする。ただし、次条第四項の規定により、他の学校等の施設を兼用する場合又は地域の実態その他により特別の事情があり、かつ、教育上支障がない場合は、この限りでない。
	運動場の面積	第十四条　運動場の面積は、全日制の課程若しくは定時制の課程の別又は収容定員にかかわらず、八、四〇〇平方メートル以上とする。ただし、体育館等の屋内運動施設を備えている場合その他の教育上支障がない場合は、この限りでない。	国の規定なし *（沖縄県私立高等学校通信制課程審査基準では、実験・実習等のための施設及び体育の授業に必要な運動場又は体育館を備えることとする旨規定。）*
	校舎に備えるべき施設	第十五条　校舎には、少なくとも次に掲げる施設を備えるものとする。 一　教室（普通教室、特別教室等とする。） 二　図書室、保健室 三　職員室 2　校舎には、前項に掲げる施設のほか、必要に応じて、専門教育を施すための施設を備えるものとする。	第九条　実施校の校舎には、少なくとも次に掲げる施設を備えなければならない。 一　教室（普通教室、特別教室等とする。） 二　図書室、保健室 三　職員室 2　前項に掲げる施設のほか、必要に応じて、専門教育を施すための施設を備えるものとする。 3・4　（略）
	その他の施設	第十六条　高等学校には、校舎及び運動場のほか、体育館を備えるものとする。ただし、地域の実態その他により特別の事情があり、かつ、教育上支障がない場合は、この限りでない。	国の規定なし *（沖縄県私立高等学校通信制課程審査基準では、実験・実習等のための施設及び体育の授業に必要な運動場又は体育館を備えることとする旨規定。）*
	他の学校等の施設及び設備の使用	第十八条　高等学校は、特別の事情があり、かつ、教育上及び安全上支障がない場合は、他の学校等の施設及び設備を使用することができる。	第十一条　実施校は、特別の事情があり、かつ、教育上及び安全上支障がない場合は、他の学校等の施設及び設備を使用することができる。

要件		高等学校設置基準	高等学校通信教育規程
教職員	校長等	（学校教育法）第六十条　高等学校には、校長、教頭、教諭及び事務職員を置かなければならない。	
	教諭の数等	第八条　高等学校に置く副校長及び教頭の数は当該高等学校に置く全日制の課程又は定時制の課程ごとに一人以上とし、主幹教諭、指導教諭及び教諭（以下この条において「教諭等」という。）の数は当該高等学校の収容定員を四十で除して得た数以上で、かつ、教育上支障がないものとする。 2　教諭等は、特別の事情があり、かつ、教育上支障がない場合は、助教諭又は講師をもって代えることができる。 3　高等学校に置く教員等は、教育上必要と認められる場合は、他の学校の教員等と兼ねることができる。	第五条　実施校における通信制の課程に係る副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭の数は、五人以上とし、かつ、教育上支障がないものとする。 2　前項の教諭は、特別の事情があり、かつ、教育上支障がない場合は、助教諭又は講師をもつてこれに代えることができる。 3　実施校に置く教員等は、教育上必要と認められる場合は、他の学校の教員等と兼ねることができる。 *（沖縄県私立高等学校通信制課程審査基準では、国基準に加え、生徒数に応じて教員を配置することとする旨規定。）*
	養護教諭等	第九条　高等学校には、相当数の養護をつかさどる主幹教諭、養護教諭その他の生徒の養護をつかさどる職員を置くよう努めなければならない。	国の規定なし
	実習助手	第十条　高等学校には、必要に応じて相当数の実習助手を置くものとする。	国の規定なし
	事務職員の数	第十一条　高等学校には、全日制の課程及び定時制の課程の設置の状況、生徒数等に応じ、相当数の事務職員を置かなければならない。	第六条　実施校には、生徒数に応じ、相当数の通信制の課程に係る事務職員を置かなければならない。
生徒数	定員	国の規定なし	第四条　実施校における通信制の課程に係る収容定員は、二百四十人以上とする。ただし、特別の事情があり、かつ、教育上支障がない場合は、この限りでない。
	授業毎	第七条　同時に授業を受ける一学級の生徒数は、四十人以下とする。ただし、特別の事情があり、かつ、教育上支障がない場合は、この限りでない。	国の規定なし *（沖縄県私立高等学校通信制課程審査基準では、同時に面接指導を受ける生徒数は１教室40人以下とする旨規定。）*

琉大附属中学校とのネット交流事業計画（英語科）

伊江中学校　教頭

1　ねらい

伊江中学校及び琉球大学付属中学校の ICT 機器を活用した授業交流を行い、沿革地域におけるネットワーク構想の可能性を探る。

2　実施にあたって

1）琉球大学、村教育委員会の主導の下、各校担当者が連絡を取り合い、具体的な実施に向け連携を図る。

2）実施検討委員会（村教委、琉大、附属中、伊江中）にて確認を取り、実施に向けて取組む。

3　交流予定日程

令和３年２月 16 日（火）２校時（09：40～10：30）

4　対象学年

2 学年

5　担当

1）伊江中：教頭、英語教諭、ICT 担当

2）附属中：英語科

6　交流内容

1）英語の授業（1 コマ）

2）ネットワーク構想の趣旨に沿う

7　検証

1）生徒のふりかえり

2）授業報告書（琉大）

８．英語指導案略案

１）日　時：令和３年２月 16 日（火）２校時　9：40～10：30

２）内　容：米加州中学生３名へ学校・地域紹介

３）目　標：地域・学校紹介を通し、即興で質問や返答をくり返しながら、互いの環境の違いを感想として伝え合う。

４）指導案：略案

時間	伊江中	California	附属中
	事前準備 ・ZOOM 接続、マイク調整 ・生徒の席配置	Connect Zoom	事前準備
10 分	Greeting ・Day, Date, Weather 返答 ・加州生徒紹介（聴く） ・Warming Up Quiz 伊江中から３問	Greeting ・ask students day, date, weather and tell yours. ・introduce yourselves ・Warming Up Quiz (Prepare 3 Quiz)	Greeting ・Day, Date, Weather 返答 ・加州自己紹介（聴く） ・Quiz 附属中から３問
1 分	めあて確認 「紹介したことを通して感想を述べあう」	・Today’s Goal [To communicate what you found and felt through introduction]	めあて確認 「紹介したことを通して感想を述べあう」
10 分	学校・地域紹介（7 分） 質問をうける（3 分）	Listen & ask	
10 分	聴く 内容を聞き質問する	Introduction of your area, school, community.(7min) Q&A (3min)	聴く 内容を聞き質問する
10 分	聴く 内容を聞き質問する	Listen and ask	学校紹介（7 分） 質問をうける（3 分）
9 分	ふりかえり 感想（２人）	Wrap up Impression of the class	ふりかえり 感想（２人）

５）調整

伊江中教頭を中心に米国の中学生と調整し附属中と連携して実施する。

ものづくり交流会　学習指導案

令和３年２月１７日（水）放課後
伊江中学校　ロボコン同好会
１年４名、２年４名、合計８名

琉大付属中学校　有志
２年１６名

１　日時　２月１７日（水）　１６時４５分　～　１７時１５分

２　場所　伊江中学校（２階多目的ルーム）
　　琉大付属中学校(技術室)

３　題材名「ものづくり交流会」

４　題材の目標

お互いの日ごろの授業(技術科)や放課後(ロボコン同好会)での作品の発表会を行うことで、交流を深めるとともに、ものづくりへの興味・関心を高め、多様な観点からものづくりに取り組むことが課題解決や問題解決に大切なことを知らせる。

５　題材設定の理由

日頃のものづくり活動を行い、交流会をすることで「主体的・対話的で深い学びの実践」を通して活動をすることで、計画性や実行性が養われ、忍耐力や協調性、創造力の豊かな心を育み自ら学びを深める生徒の育成することができると考える。

６　校内研修との関わり

主　題：自ら学びを深める生徒の育成 副主題：主体的・対話的で深い学びの授業実践を通して

本研究は、学校教育目標の具現化を目指し、全教員で共通主題の下に授業実践を行っているものである。生徒の「思考力、判断力、表現力を育成する授業」を作り、実践することを追求し、研究している。

「ものづくり交流会」を通して、ものづくりへの興味・関心を高め、多様な観点からものづくりに取り組むことが課題解決や問題解決に大切なことを知らせ校内研修の主題に迫りたい。

7　本時の展開

	生徒の活動 (学習活動)	指導上の留意点	準備・備考	法
導入 (３分)	・本時の交流会の流れ 説明			
展開 (２５分)	・琉大付属中の生徒授業作品 (エネルギーロボット)のデモンストレーション発表を行う ・琉大付属中学校の発表に対する質疑応答を行う ・伊江中の生徒授業作品 (エネルギーロボット)、ロボコン同好会(県大会出場ロボット)のデモンストレーション発表を行う ・伊江中学校の発表に対する質疑応答を行う	・他の学校では、どのような課題を乗り越えてものづくりに取り組むことができたのか情報の共有を行う。 ・多様な観点からものづくりに取り組むことが課題解決や問題解決に大切なことを知らせる。	授業作品 (エネルギーロボット) 授業作品 (エネルギーロボット) ロボコン同好会作品 (県大会参加ロボット)	
まとめ (２分)	・お互いに交流することで多様な観点からのものづくりに取り組むことができることを知らせる。			

琉大付属中学校とのネット交流事業計画【音楽科】

伊江中学校　音楽科

１．ねらい

　伊江中学校及び琉球大学附属中学校の ICT 機器を活用した授業交流を行い、遠隔地域におけるネットワーク構想の可能性を探る。
音楽科における授業力向上に向けての指導法や、日ごろの実践や課題を共有し、指導を仰ぎ今後の授業につなげる研修会とする。

２．実践方法

①伊江中学校音楽科の日ごろの授業を参観いただき、指導・助言をいただく
②伊江中音楽科の授業に参加いただき、授業実践会とする
③研修のまとめ

２．日程

①令和３年1月１９日（火）２時間目　zoom を用いて授業参観【音楽室】
②令和３年2月 15 日（月）３時間目　授業実践会【２年多目的】
③令和３年2月 17 日（水）放課後　　研修振り返り会

３．助言いただきたい内容

・男声の声作り指導方法（附属中教諭の実践より）
・技能テストにおける評価基準（新学習指導要領による評価の観点より）

４．方法

Zoom を用いての授業参観及び、パネルを用いての遠隔地からの授業参加を図る。

資料

１）日時	令和３年１月19日（火）９時４０分～１０時３０分 合唱は授業後半１０時０５分開始 ※Zoom、Skype、LINE 電話、FaceTime のいずれかの方法で授業を共有する
２）対象学級	２年１組　３１名
３）目標	声の出し方を意識して、理想の音色に近づこう
４）日ごろの実践	合唱活動において、パートに分かれた練習ではピアノを囲み、教師との発声練習を行っている。発声時のブレスを意識し、同じタイミングで声を出すこと、そして伸ばしている音の時に仲間の声に耳をすませることを指導している。
５）成果と課題	音楽が好きで、日ごろから堂々と歌える生徒である。発声練習を通して、合唱時にブレスのタイミングを意識するようになり、指揮者に注目ししっかり息を吸って歌えるようになっている。しかし、理想とする響きのある歌声の育成には至っておらず、男声の声作り指導を勉強したいと強く感じている。
６）評価方法	【関心・意欲・態度】及び【創意工夫】に関しては、毎時の学習カード、観察からみとっている。「～が難しい」という自己の課題を認識し、「どうすればできるようになるか」を思考する過程で工夫することができているか、意欲をもって課題解決に臨んでいるかを、学習カードの記述からみとることができる。【技能】に関しては、毎時の観察及び単元最終時に技能テストを行っている。 【技能】における評価項目は、「音程」、「姿勢」、「声量」の３つとし、abc で評価しているがより具体的かつ生徒が意欲的、主体的学習につながるような評価の実践があれば、勉強したい。

授業に参加した生徒に対する質問紙調査の結果

一連の検証実験授業に参加した伊江村立伊江中学校（以下「伊江中」と表記。）の生徒および琉球大学教育学部附属中学校（以下「附属中」と表記。）の生徒に対して，授業後に質問紙調査を実施した。ここでは，「音楽の授業」，「英語の授業」，「ものづくり（ロボット）交流」の３つの検証実践それぞれで行った質問紙調査の結果を分析した。調査は，回答したくない設問は回答しなくてもよいことを教示した上で，無記名で回答させた。

分析に際しては，設問毎に無回答以外の提出された回答を全て有効回答と見なした。また，軽微な計算以外の統計的な分析には，js-STAR XR version 1.0.4j を用いた。

1. 2021 年2月 15 日実施　伊江中生徒のみを対象とした音楽の授業

- **回答者について**

① 音楽は好きですか（次の１～５の中から，もっとも当てはまるものを〇で囲んで下さい）

選択肢	5.好き	４．どちらかといえば好き	３．どちらでもない	２．どちらかといえば嫌い	1.嫌い	無回答	計
人数	14	4	6	1	5	0	30

「5.好き」と「4.どちらかといえば好き」という音楽に対する肯定的な態度を示した生徒の合計（18 人）を，「3.どちらでもない」（６人）及び「2.どちらかといえば嫌い」と「1.嫌い」という否定的な態度を示した生徒の合計（６人）とを１×３ χ^2 検定で比較した結果，有意差が認められた（χ^2 (2)=9.601，p<.01）。しかし，ライアンの名義水準を用いた多重比較（有意水準 α=0.05）の結果には有意差は見られなかった。

② 音楽は得意ですか（次の１～５の中から，もっとも当てはまるものを〇で囲んで下さい）

選択肢	5.得意	４．どちらかといえば得意	３．どちらでもない	２．どちらかといえば苦手	1.苦手	無回答	計
人数	2	10	8	3	7	0	30

「5.得意」と「4.どちらかといえば得意」という音楽が得意と自己評価している生徒の合計（12 人）を，「3.どちらでもない」（８人）及び「2.どちらかといえば苦手」と「1.苦

手」を合わせて不得意と自己評価している生徒（計 10 人）とを１×３ χ^2 検定で比較した結果，有意差は認められなかった（χ^2 (2)=0.800，n.s.）。

この２つの設問の結果から，この音楽の授業に参加して質問紙調査に回答した伊江中の生徒は，音楽に対する肯定的な態度を示した生徒は相対的に多いが，そうではない生徒も一定数存在しており，得意な生徒もいれば不得意な生徒も存在している学級だった。

③ 今日の音楽の授業で学んだ内容の習得状況（どれくらい知識や技能が身に付いたか，授業の目標（ねらい）にどれくらい到達できたか）を 100 点満点で自己評価してください。評価基準として「不十分なところやできなかったところもあるが，だいたいできた」と評価して“問題ない”とあなたが思う最低ライン（及第点）を 60 点として点数を付けて下さい。

得点幅	90 点以上	80 点台	70 点台	60 点台	50 点台	49 点以下	計
人数	0	5	11	8	4	2	30

最高点は 85 点（３人），最低点は 0 点（１人）であった。相対的に低い自己評価をした０点の生徒の回答は，設問①が「１.嫌い」，設問②が「３.どちらでもない」であり，それに続く 47 点の生徒の回答は，設問①が「３.どちらでもない」，設問②が「１．苦手」であり，この２人の音楽という教科や授業に対しての印象は良くないことが伺える。85 点と自己評価した生徒は，３人とも設問①が「５.好き」，設問②が「４．どちらかと言えば得意」と回答していた。その一方で，設問①が「１.嫌い」，設問②が「１．苦手」と回答しつつも 80 点と自己評価した生徒や，設問①が「５.好き」，設問②が「５．得意」と回答しつつも 60 点と自己評価した生徒も存在していた。

- **今日の授業について**

④ 今日の音楽の授業で学んだ内容に興味は持てましたか（次の１～５の中から，もっとも当てはまるものを〇で囲んで下さい）

選択肢	５．とても興味がもてた	４．少し興味がもてた	３．どちらでもない	２．あまり興味はもてなかった	１．全く興味はもてなかった	無回答	合計
人数	5	16	4	3	2	0	30

「５.とても興味がもてた」と「４.少し興味がもてた」という肯定的な評価をした生徒の合計（21 人）を，「３.どちらでもない」（４人）及び「２.あまり興味はもてなかった」と「１.全く興味はもてなかった」という否定的な評価をした生徒の合計（５人）とを１×３ χ^2 検定で比較した結果，有意差は認められた（χ^2 (2)= 18.202，p<.01）。ライアンの名義水準を用いた多重比較（有意水準 α=0.05）の結果，肯定的な評価をした生徒は，肯定的な評価をしなかった生徒に比べて有意に多かった（肯定的＞どちらでもない，p=0.0014；肯定的＞否定的，p=0.0032）。「１.全く興味はもてなかった」と回答した生徒の１人は設問③の自己評価が０点の生徒であり，もう１人は 70 点と評価していたが，設問①，②はともに「１.」を選択していた。「２.あまり興味はもてなかった」と評価した生徒の設問③の自己評価は，それぞれ 61 点，67 点，69 点で，61 点の生徒は設問①，②の両方とも「４.」を選択していたが，他の２人は両方とも「１.」を選択していた。つまり，この設問で否定的な回答をした生徒のほとんどは，音楽という教科や授業に肯定的な印象を持っていなかった。一方「５.とても興味がもてた」と評価した生徒の設問③の自己評価は 85 点が２人，75 点が１人，70 点が２人であり，全員が設問①で「５.」を回答し，70 点の生徒が設問②の回答が「５.」と「３.」に分かれた以外は３人とも「４.」を選択しており，音楽が好きな生徒の興味を喚起したと評価できる。

⑤ 普段の授業や授業参観のように，同じクラスの生徒だけで受けている授業や，保護者や地域の人が直接学校を訪問して参観するのではなく，ICT を用いて，伊江中学校に直接来られない人が授業を参観できるようにすることについての印象はどうですか(次の１～５の中から,もっとも当てはまるものを○で囲んで下さい)

選択肢	５．全く気にならなかった	４．どちらかといえば気にならなかった	３．普段の授業や授業参観と同じくらい	２．どちらかといえば気になった	１．とても気になった	無回答	合計
人数	7	5	6	6	6	0	30

今回の実証実験授業のように，授業者の１人が遠隔で参加し，さらに授業の様子を遠隔で参観される状況について「１.とても気になった」や「２.どちらかといえば気になった」と回答した生徒の合計（12 人）と，それ以外の回答を選択した生徒の合計（18 人）を１×２正確二項検定（両側検定）で比較した結果，有意差は見られなかった（p=0.3616>.10）。つまり，通常の授業や授業参観とは異なり，今回のような学習環境が「気になる」と回答した生徒の存在を軽視できないことを意味している。

⑥ ④，⑤の回答（選択）理由を自由にお答え下さい

- 歌詞の意味をしれたから［④：４　⑤：２］
- 歌の上達があまり見れなかったから［④：２　⑤：４］

- 音楽に対して成長できると思ったし，このオンラインでも学べるのでよかった［④：４ ⑤：３］
- 歌詞の意味や背景などについて考えたことがなかったので難しかったです［④:４ ⑤:４］
- 改善点がわかったから［④：４ ⑤：５］
- ④よりよい合唱になる方法が分かったからです ⑤長時間ずっと同じ状態ではなかったからです［④：５ ⑤：５］
- 人が多いと気が散るから［④：３ ⑤：１］
- 普段と違う形で授業をして気になった［④：４ ⑤：２］
- ④は，授業を受けたような感じがしたから ⑤色んな人が来てたから［④：３ ⑤：３］
- 改ぜん点がわかった［④：３ ⑤：５］
- 自分の歌う歌だから［④：４ ⑤：５］
- 音楽がそこまで好きじゃあないから［④：２ ⑤：４］
- 音楽は好きではないから［④：２ ⑤：４］
- 先生がいっていたことがあまりかんじとれなかった。先生，うたってたけどちがいがみつからなくかんじた［④：１ ⑤：５］
- 卒業式でうたっている時に何を想像してできるかをしれたから［④：４ ⑤：２］
- ブレスのところでたくさん息をすって盛り上がりのところでｆで言うのがとても良いと思ったから［④：４ ⑤：４］
- 歌詞の意味を理解しながら歌えたから［④：４ ⑤：１］
- 他の先生や違う地域の人から学べることができるから［④：４ ⑤：３］
- いつもりよりきんちょうしたし，やり方も限られてしまうから［④：５ ⑤：２］
- もっと上手に歌えるようになりたい［④：５ ⑤：１］
- ④サビに向けて大きくしていくことを習ったから ⑤周りの人が多かったから［④：４ ⑤：１］
- 交流時間が短かった［④：３ ⑤：２］
- 会話していて全然気にならなかったから［④：４ ⑤：５］
- 人が多いから［④：４ ⑤：３］
- 先生の教え方が分かりやすい［④：５ ⑤：１］
- 先生のおしえ方がとてもぐたい的でよかった［④：５ ⑤：１］

この設問への自由記述回答内容と，その記述をした者の設問④，⑤の回答を［ ］内に併記したものを上に記した。その上で，記述内容からどちらのことについて記載しているのかを推定し，記載されていると判断した回答状況に下線を付した。設問⑤で「気になる」旨を回答した生徒でその理由を明示したと考えられるのは，「いつもりよりきんちょうしたし，やり方も限られてしまうから」や「もっと上手に歌えるようになりたい」，「周りの人が多かったから」程度であり，ほとんどは設問④の学習内容に関する選択理由だと推定できるものだった。従って，ICT を活用した授業参観は，通常よく行われる授業参観と同様に「ある程度の慣れ」で「気にならなくなる」ように解決できることが示唆される。

⑦ 授業参観のためにICT機器を使った今日の授業について，良かったところや，改善・改良してほしいところや要望があれば自由にお書き下さい

- とぎれとぎれになったりする
- その歌について詳しくおしえてくれた
- オンラインで学べる。ちょっと時差があったりする
- 特にありません
- 時差・ラグい
- 特になし
- 良いところは他者からいろんな意見をきける
- 良かった所は声が切れたり画面が固まらなかったこと
- 時差
- 遠いところにいる人と会話できる。時差がある
- ラグさです。音ずれ，音消し，がしつのひくさが授業にえいきょうがあった
- 時差があったからなおしてほしい
- 音がずれてたり，たまに聞こえなかったりした
- 良:普段とちがう先生からの刺激をいただける　改善:うたい方やパートごとでのやり方がふくざつであまりアドバイスをもらえなかった(ソプラノ)
- 交流ができてよかったです
- 相手のところとのタイムラグがあるため音楽で歌っているときになくなるようにしてほしい
- あんまり時差が感じなかった
- 遠くはなれていても，アドバイスなど助言がもらえていい
- 分からないことを知れた
- ないです

「声が切れたり画面が固まらなかったこと」から遠隔授業システムの安定性を評価したり，「あんまり時差が感じなかった」という評価もあったものの，回答内容として目立ったのは，上に示したように「タイムラグ（時差）」に関するものである（下線部参照）。生徒だけでなく附属中から遠隔で授業した附属中の音楽科教員もこのタイムラグが影響しており，指導しにくく感じただけでなく，生徒への指導に戸惑いがみられたことを授業参観時に確認した。生徒は遠隔地にいる指導者の指示通り活動しているのに，指導者には指示通り活動しているように聞こえてこないのである。指導者の耳には自分が弾いた伴奏の音が聞こえ，それがマイクで集音され伊江中に伝わり，その音に合わせて生徒が歌い，歌と伴奏が伊江中側のマイクで集音され附属中側のスピーカーから聞こえてくるため，伴奏している感覚とそれに付随する音の聞こえと，スピーカーから聞こえる生徒の歌唱とのズレを解消することが求められる。新型コロナウィルス感染症への対応での活動自粛期間中に新日本フィルハーモニー交響楽団が遠隔合奏した動画をYouTube上で公開したことが話題となったが，これもweb会議のように合奏した動画ではなく，個別の撮影動画を編集（合成）したのであることが知られている（https://www.buzzfeed.com/jp/harunayamazaki/njp-paprika参照(2021年2月25日確認)）。

つまり，プロの演奏家集団であっても，音のズレをリアルなライブ環境で避けるように演奏することは難しいということであろう。過去にも指摘されてきたことだが，とりわけ今回の音楽のような遠隔授業では，音のズレが影響しないようにする工夫が不可欠であることを示している。一案として，指導者側の電子ピアノを直接モニターできないように（伊江中側にだけ聞こえるように）することが考えられるが，さらなる検証が不可欠であり，想像の域を超えた解決策にはなっていない。

⑧ ICT 機器を用いて，伊江中学校を直接訪問出来ない人が皆さんの授業を参観する機会を設定する場合，普段の授業参観や公開授業のように「事前予告」があったほうがいいですか？（次の１～５の中から，もっとも当てはまるものを〇で囲んで下さい）

選択肢	５．必ず事前予告してほしい	４．どちらかといえば事前予告してほしい	３．どちらでもない	２．どちらかといえば事前予告しなくてもよい	１．事前予告は不要	無回答	合計
人数	12	5	12	1	0	0	30

事前予告を明確に希望していない生徒はわずか１人で，事前予告を希望する生徒（計 17 人）が圧倒的に多く，この回答状況に対する１×２正確二項検定（両側検定）の結果も，p=0.0001<.01 と有意に「事前予告必要」に偏っていることを示した。設問⑤で遠隔による授業参観を「気になる」環境下だと回答した生徒の存在を軽視できないこととあわせて配慮が必要であることを示唆している。

⑨ ICT 機器を用いて，伊江中学校を直接訪問出来ない人が皆さんの授業を参観する場合，どれくらいの回数（頻度）で行ってもいいでしょうか（次の１～７の中から，もっとも当てはまるものを〇で囲んで下さい）

選択肢	７．毎回（できる時はできるだけ行う）	６．週１回程度	５．月１～２回程度	４．２～３ヶ月に１回	３．半年に１回～年に１回	２．特別な時にだけ行う（定期的に行わない）	１．行う必要はない	無回答	合計
人数	3	1	5	6	4	7	4	0	30

設問⑧の回答で「事前予告必要」という回答が相対的に多かったのと関連して，「７.毎回（できる時はできるだけ行う）」と「６.週１回程度」という，中学校の音楽の教育課程を鑑みて，事実上毎回を選択したと想定できる生徒はわずか４人で，それ以外を選択した生徒の合計人数（26 人）と比較した１×２正確二項検定（両側検定）の結果も p=0.0001<.01 であり，多頻度での実施を求める声は有意に少なかった。

⑩　⑧，⑨の回答（選択）理由を自由にお答え下さい

- 事前予告しないとしつもんなどがやりにくい［⑨：２］
- 急に言われてもむりだから［⑨：２］
- 予告してないとすぐにはきできないし毎回やることで成長できるから［⑨：７］
- リモートでやるのも楽しいので，毎日行っても全然 OK です［⑨：５］
- 自分たちの意見をいいあう事が大切といっていたから［⑨：２］
- 予告してくれないと準備ができないし，普通の授業もうけたいから［⑨：５］
- 急に人がくるのがいやなうえ，人と定期的に会う必要性を感じないため［⑨：２］
- こまめに授業をすると成長がみられにくいと思う［⑨：３］
- ⑧は急に言われてもあまり楽しみにならない　⑨は，ひんぱんにやるとあきそうだから［⑨：３］
- じゅんびしたいから［⑨：１］
- 予告がないと準備できないから。特別な時行うとその特別な時が見れるから［⑨：２］
- 交流が多い［⑨：４］
- 最近交流授業が多いから［⑨：４］
- しょうじきあまりきょうみがないです［⑨：３］
- 自分の苦手な所をなおすためにもっとやってほしい［⑨：６］
- 事前予告をしてもかわらないかなと思ったから［⑨：５］
- 予告しないと気持ちがつくれないから［⑨：１］
- やる時に事前予告がないとその場で質問を考えるのが苦手だから［⑨：２］
- 新たな刺激は，沢山あった方がいいし，どんな状況でもうたえる力をつける機会にもなる［⑨：７］
- 人前に出るのは苦手だから［⑨：２］
- 毎日やってもいいものの，心の準備が必用だから［⑨：７］　※誤字は原文ママ
- 普通の授業もしっかりと受けたいから［⑨：４］
- 月に 1～2 回やるとしたら 2～3 ヶ月に１回の方が回数的に良いと思ったから［⑨：４］
- 全く緊張しなかったし，定期的に行い助言がもらえるから［⑨：４］
- 人が周りにいてもふつうに歌うことになれるため［⑨：３］

この設問への自由記述回答内容と，その記述をした者の設問⑨の回答を［　］内に併記したものを上に記した。「リモートでやるのも楽しいので，毎日行っても全然 OK です」と答えながら，設問⑨で「５.月１～２回程度」を選択した生徒や，「予告してくれないと準備ができないし，普通の授業もうけたいから」と，「交流型」ではない，伊江中の生徒のみを対象に授業

者と伊江中で行う直接対面型授業を望む声もある。「交流が多い」や「最近交流授業が多いから」という回答も伊江中の生徒のみを対象に授業者と伊江中で行う直接対面型授業を望む声であろう。「毎日やってもいいものの，心の準備が必用だから」や「予告してないとすぐにはきできないし毎回やることで成長できるから」と多頻度での実施肯定的に捉えた回答もあるが，設問⑤，⑧，⑨の回答と照らし合わせて，伊江中の生徒は，ICT を活用した遠隔での授業が「非日常（特別）であるべき」という認識が垣間見られる。

⑪　その他，何かあれば自由にお書き下さい

- 特にないです
- 今日の授業楽しかったです。今後もやりたいです
- ない
- ないです

上に記したこの設問への自由記述回答内容から，特段の要望や苦言はなかったと判断できる。

2. 2021 年2月 16 日実施　伊江中と附属中と米国を結んだ英語の授業

- **回答者について**

① 英語は好きですか（次の１～５の中から，もっとも当てはまるものを〇で囲んで下さい）

選択肢／中学校別回答人数	5.好き	４．どちらかといえば好き	３．どちらでもない	２．どちらかといえば嫌い	1.嫌い	無回答	計
伊江中	8	7	8	2	3	0	28
附属中	13	11	3	6	4	0	37

② 英語は得意ですか（次の１～５の中から，もっとも当てはまるものを〇で囲んで下さい）

選択肢／中学校別回答人数	5.得意	４．どちらかといえば得意	３．どちらでもない	２．どちらかといえば苦手	1.苦手	無回答	計
伊江中	0	6	6	4	12	0	28
附属中	4	10	8	3	12	0	37